

## （編集後記）

今回、オンブードとして、複数の部署の方にヒアリングさせていただきました。その中で、理想の男女共同参画の在り方について、市職員がもっておられるイメージを訪ねました。日々の業務の中で、どのような長期的展望、あるいは伊丹市としての理想像をもっておられるかを知りたかったからです。ある職員の方からは、業務をする上で、「女性だから」「男性だから」という意識をせずに済むこと、つまり性別について無意識でいられるようにするのが理想であるとの回答がありました。筆者もまさしく同感です。しかしながら現状は、女性と子どもを産むこと、そしてそれに関して家事・育児役割の多くを担っていることなど、就業をはじめとした社会参画における阻害要因が山積みです。性別を「意識せずに」女性が活躍できるためには、女性が就業や社会参画が可能になるようにするにはどうすればよいか、まずは多くの市民に「意識して」考えてもらうプロセスが必要だと思いました。

（土肥）



ヒアリングをして様々な課の市職員にお話を伺っていると、男女共同参画推進のために試行錯誤したり、行動したりしている方が多いことは喜ばしいことでした。

一方で今までの事業を継続することが目的になっているように感じたり、新しい試みももう少し市民の意見を聞いていただきたいと思う事業もありました。

数年前に比べて共働き家庭も増え、今までは問題なかった事業も変化せざるをえなくなってくるかと思います。少し事業内容を変えるだけでも、性別にかかわらず生きやすくなる伊丹市になるでしょう。今までの事業を見直したり新しい試みをするのはとても大変なことではあると思いますが、市民の声を聞き入れてより良い伊丹市になるように期待しています。

（中田）



新型コロナウイルス流行のため、例年なら5月～10月の半年にかけて行うオンブード報告書作成期間が今年度は9月～12月の4か月になりました。

作成期間中にも、非正規雇用者の失業の増加、ひとり親世帯の更なる貧困、自殺者の増加（中でも女性の自殺増）など、男女共同参画を進めなければならないと思わせるニュースがどんどん増えていき、報告書を出す意義を改めて感じました。非正規雇用者もひとり親世帯も女性の割合が多く、「男は仕事・女は家事・育児・介護」という性別役割分担の考え方を変えていく施設が必要だと思いました。ワーク・ライフ・バランスが推進されている時代、特に女性の就業の必要性を感じています。コロナ禍の現在、日々の対応の方が優先されるかもしれません。ですが、上記にあげた困難をなくすためにも男女共同参画の推進を進めていただきたいです。

（星野）



## （相談ができる窓口）

### 伊丹市DV相談室

伊丹市配偶者暴力相談支援センター  
専門の相談員が相談に対応しています。

TEL:072-780-4327

面接・電話相談 平日 9:00～17:30

（土・日・祝日・年末年始除く）匿名可



### 伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

伊丹市宮ノ前 2-2-2 伊丹市商エブラザ 5 階

TEL:072-781-5516

・女性の相談 TEL:072-781-5531（毎月・第日曜）

・男性の相談 TEL:072-781-5532（第1土曜）

・セクシュアルマイノリティ相談 TEL:072-767-1012

（毎金曜）

※一時保育有（要予約）



## 【発行・問い合わせ】

伊丹市市民自治部共生推進室同和・人権推進課 TEL:072-784-8146 FAX:072-780-3519

## 伊丹市男女共同参画施策

# 市民オンブード報告概要版

（令和元（2019）年度事業内容）



伊丹市マスコット  
たみまる

伊丹市長の委嘱により、市民の立場から本市の男女共同参画計画の進捗状況についてチェックする、伊丹市男女共同参画施策市民オンブードの令和元（2019）年度事業内容に対する報告書がまとまり、市長に提出されました。このリーフレットは、「報告書」の概要版です。

## 【報告書の目次】

### 第2期伊丹市男女共同参画計画 進捗状況報告

数値目標及び達成状況

令和元（2019）年 進捗状況の概要

体系表

（参考資料）伊丹市特定事業主行動計画 実績値状況（女性活躍推進法）

### 第2期伊丹市男女共同参画計画 市民オンブード調査報告

#### I 性別に関わりなくともに活躍できるまち

【基本目標1】ワーク・ライフ・バランスの実現と男女平等を推進する

【基本目標2】意思決定の場への性差に偏らない参画を推進する

#### II だれもが自分らしく暮らしつづけられるまち

【基本目標3】男女共同参画社会を支える市民の意識を高める

【基本目標4】性差に配慮した健康施策を推進する

【基本目標5】困難を有する女性などに対する施策を推進する

#### III 性別に関わりなく、だれもが安全で安心できるまち

【基本目標6】女性への暴力をはじめとするあらゆる暴力を根絶する

【基本目標7】男女共同参画の視点に立った災害の取り組みを推進する

#### IV 計画の着実な推進

【基本目標8】連携と協働により計画を推進する

くわしくは、中面へ！⇒

下記のホームページには、市の進捗状況報告や、市民オンブードからの〈さらに一言〉を「概要版」と合わせて掲載しておりますのでご参照ください。

市民オンブード調査報告書（平成23（2011）年度～令和元（2019）年度）

伊丹市ホームページ <http://www.city.itami.lg.jp/>

（ [オンブード調査報告書](#) [検索](#) ）



## 基本目標毎のオンブード評価

### 【基本目標 1 について】

#### ワーク・ライフ・バランスを後押しする 様々な仕掛けあり

・商工労働課では、市内の 300 以上の中小企業に、「労働に関する情報コーナー」が掲載されたチラシを配布しています。そして、労働者が看護や介護休暇を取得しやすくするための支援金支給制度などについて、事業者情報に情報周知をされていました。女性に偏りがちな看護・介護に男性も関わりやすくなることを期待します。

・「いたみ就勝塾」、「女性創業塾」（商工労働課）や「女性のためのチャレンジ支援講座」（同和・人権推進課）などにより、就業を希望する女性や若者を支援されていました。グループワークや就職相談会など含まれるシリーズものの講座もあり、充実した内容のようでした。労働によって得られる生活満足感や充実感、社会とのつながり、豊かな人間関係は、男女に関わらず全ての市民に与えられるべきだと思います。今後も働きたい方に対して手厚く支援して下さることを期待します。

・公民館では、家庭教育支援事業として「0歳児ママ（時々パパ）のワイワイトーク」を実施されました。参加者は、母親がのべ 67 人、父親が 21 人でした。父親も参加する休日開催の回では、父親同士、どの程度子育てや家事に関与しているかを訊ねあったり、母親が職場復帰した後の夫婦の役割分担など将来のことを意見交換されたりしたそうです。こうした催しに参加される市民は、かなり積極的によりよい生き方を模索されている方々だと思います。そのような方々が、子どもを通わせている保育園で他の保護者に催しの様子を伝えたり、次回は誘い合って参加したりして、父親同士の育児仲間が増えていけば、育児をより楽しいものにできるだろうなと思いました。

・介護保険課では、高齢男性向けの料理教室などを開催されました。家事の経験のない高齢男性は、妻が病気や要介護状態になったり、逝去されたときに家事に直面します。しかし、未経験のことを一から覚えるのは困難です。わかりやすく簡単にできる調理法などを覚えてもらおうそうです。こうした教室において、家庭内の家事のスキルアップと同時に、近所付き合いや助け合いにもつながっていくような仕掛けもあるとよいかもしれないと感じました。

### 【基本目標 2 について】

#### 地域活動における女性リーダー

・「地域活動における女性リーダーの育成を支援する」とありましたが、担い手が男女ともに不足している現状を知りました。多様なツールを活用し地域活動の必要性を発信していくとのことでした。さらに地域活動において疑問や不安などヒアリングし男女問わず能力を活かせる場になるようにサポートしていただきたいです。

また女性リーダーが増えることで、今までの地域活動を違う視点で見ることができたり、不要な習慣が見つかるかもしれません。活躍している人のモデルや事例を紹介するなどして、女性リーダー育成も期待します。

### 【基本目標 3 について】

#### 表現を通じて社会を変える

・「表現ガイドライン」が平成 30 年度末に作成されました。これは、刊行物等の作成の際に、固定的性別役割分担意識を形成しないよう、より良い表現について考える指針として市職員、一般市民に活用してもらうためのものです。

日々のコミュニケーションの積み重ねによって社会のあり方は作られ、また変わっていきます。長年の慣例通りに男女に対する言葉使いや呼び方を区別したり、現実には男女で異なる役割をしているからその通りに表現するというのでは、社会は変わりません。特に子どもの教育のためには、少々の不自然さは承知の上で、積極的に新しい社会像を示した表現の必要性を感じました。

### 【基本目標 4 について】

#### 市民の体と心を守る

・「いたみ健康・医療相談ダイヤル 2 4」には年間 2 万件近くの相談が寄せられています。出産・育児・医療・健康・介護・メンタルヘルスなどの相談、医療機関情報の提供など多岐にわたって対応されているのは評価できます。相談者は女性が男性の 3.5 倍と多いのです。女性の相談が多いのは、女性が母や妻などの立場で家事育児介護を多く担っていて、家族の相談をしているからと考えられます。男性の相談の少なさも気になります。

・自殺予防支援として、ゲートキーパー養成研修が市職員対象に行われています。窓口に来られた市民の命を救うのに大変良い取り組みであると思います。

オンブード調査では、計画の基本目標別に、担当課へヒアリングや書面で質問を行い、その結果や意見を報告書にまとめました。報告書の内容からピックアップしてお知らせします。

### 【基本目標 5 について】

#### ひとり親になったら まずは市役所に相談に

・伊丹市のひとり親世帯の正確な数はわかりません。児童扶養手当受給者の数でひとり親を把握すると、母子家庭・養育者 1336 名、父子家庭 65 名です。圧倒的に母親が子どもを引き取り育てています。これは、「男は仕事、女は家事・育児・介護」という意識に基づく生き方が影響しているのではないのでしょうか？上記に記した性別役割分業の意識が強くて専業主婦であった場合、女性はひとり親になり働き始めても、正職員より非正規雇用の割合が多くなり収入も少なくなる傾向があります。ワーク・ライフ・バランスを意識して女性も働き続ける必要があると考えます。

・市では離婚を考える市民からも相談を受けています。公的機関の支援内容のサービス一覧表を渡したり、養育費や生活費など離婚後の生活の見通しの相談にのっています。ひとり親になってからも、経済的困窮、家族関係、子育て、就職活動困難などの個別相談にのっています。ひとり親になることがあれば、まず市役所に相談に行ってください。

・離婚後、養育費を払わない父親が多いことも母子家庭の貧困につながっていると思います。他市では養育費の取り立ての肩代わりが行われていますが、それは無理だとしても、養育費を父親が払うべきであるという啓発をぜひ進めていただきたいです。

### 【基本目標 7 について】

#### 防災に、自助・共助・公助の視点を

・災害が起こった時、伊丹市では指定避難所（学校など）を開設します。そのうえで特別な配慮を要すると市が判断する妊産婦・乳児・高齢者・障がい者等の方々は、市と福祉避難所が協議を行ったうえで、福祉避難所に移ります。避難所マニュアルには女性や弱者への配慮も記載されていて評価できます。今後、新型コロナウイルスのため、ソーシャルディスタンスを配慮した避難所運営をしないといけなくなります。その場合、今までの避難所では不足する事態が起こると思いますので、「自助」の必要を啓発していただきたいです。

### 【基本目標 6 について】

#### 暴力で悩む人を減らすために

・セクシュアル・ハラスメントなどの暴力を根絶するにあたり、女性のためのカウンセリングでの内訳を聞いたところ、令和元(2019)年度の女性のためのカウンセリングの相談件数が例年より少なかったそうです。それは女性・児童センターの工事も関係していたとのことでした。令和(2020)年度から男女共同参画センターが開設し、アクセスもしやすくなったので、ハラスメント被害に遭っている方の悩みが一人でも多く解決するように、市民の方に多くの相談事業を知ってもらえたらと願います。

・子どもの性暴力への防止については、スーパーバイザーを招へいし、助言や指導を受けているとのことでした。虐待の通報は全国的に増えてきているため、日々虐待の対応で忙しいかと思いますが、スーパーバイザーに意見を求めたり、研修をしていただいたり日々努力し知識を深められているのは素晴らしいことです。コロナ禍でみなさんが引きこもるとDVも虐待も外からは見えにくくなる心配があります。虐待は心理的な虐待が5割と夫婦間の暴力を見て子どもの心が傷つくものも含まれていますとのことで、夫婦喧嘩やDVがいかに子どもの心を傷つけるかを多くの方に知ってもらい虐待などを市民の方たちにも早期発見してもらえよう引き続き講演などをがんばっていただきたいです。

### 【基本目標 8 について】

#### 固定的性別役割分担意識をなくし 働きやすい庁内に

・「男は仕事、女は育児」という固定的性別役割分担意識を持っていると、共働きでも女性に家事育児の負担が多くなったり、男性が長時間働かなければいけないという思い込みもできたりして男女ともに負担が大きくなります。庁内でも共働き家庭が増えており男女関係なく仕事と家事育児を両立している方も増えているそうですので、昇任試験や制度面など試行錯誤しつつもさらに働きやすくなる市役所になるように期待しています。